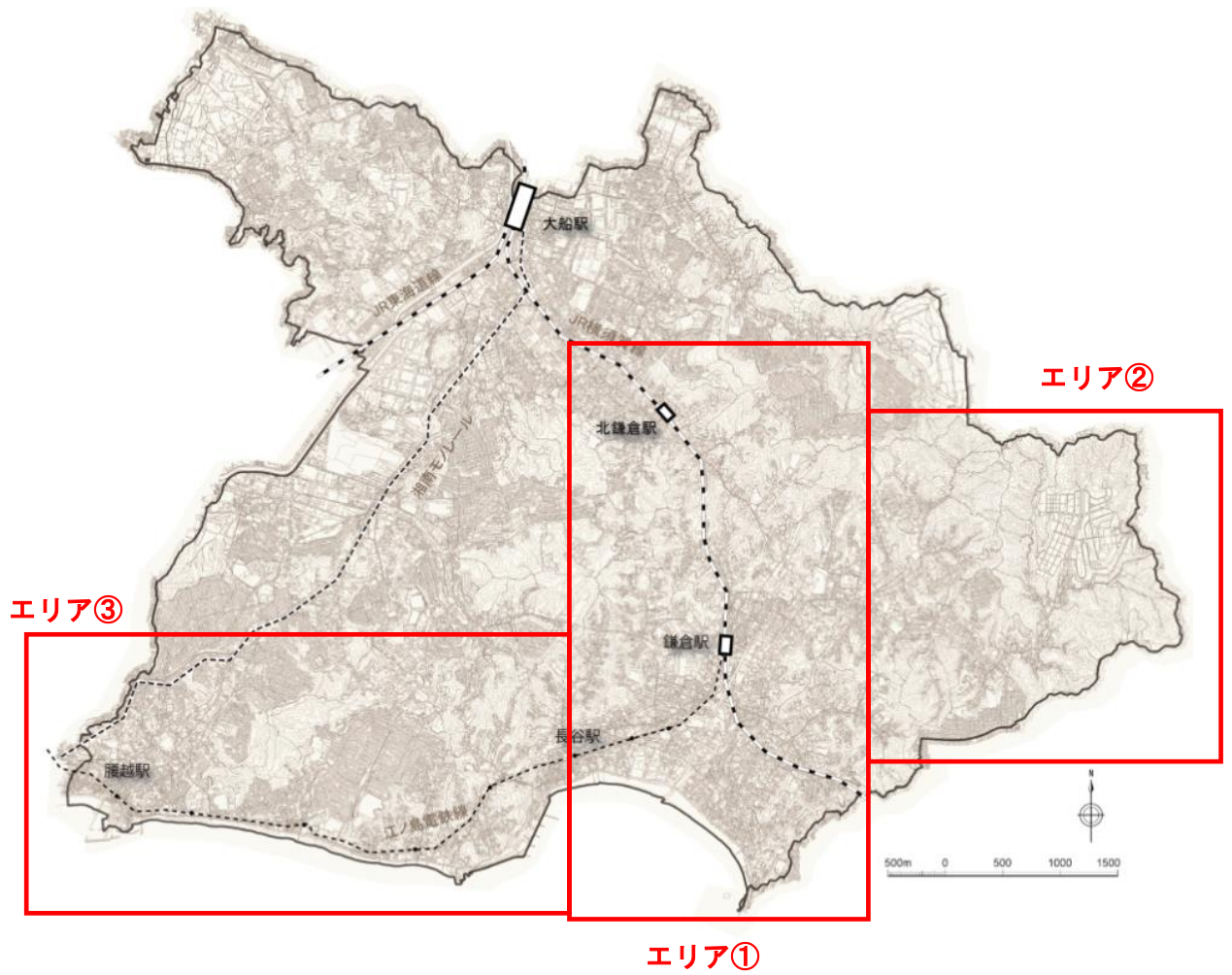


① 申請者	鎌倉市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	いざ、かまくら ～ れきしとぶんかがえがくもざいくがのまちへ ～		
「いざ、鎌倉」 ～ 歴史と文化が描くモザイク画のまちへ ～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
鎌倉は、源頼朝によって幕府が開かれた後、急速に都市整備が進められ、まちの中心には鶴岡八幡宮、山には切通、山裾には^{きりどおし}禅宗寺院をはじめとする大寺院が造られた。 この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、近世には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、近代には多くの別荘が建てられたが、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は守り伝えられてきた。 このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事など^{なりわい}様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。			

市町村の位置図



構成文化財の位置図



エリア①拡大図



出典：国土地理院ホームページ (<http://maps.gsi.go.jp/>)
地理院地図を加工して作成（以下同じ）

エリア②拡大図



エリア③拡大図



ストーリー

【鎌倉幕府の成立】

鎌倉は、12世紀末に源頼朝が幕府を開き、貴族社会から武家社会への転換という、革命的な変化が起きた舞台であり、本格的な武家政権が誕生した地である。

鎌倉は、政権所在地となって以降、幕府によって急速に都市整備が進められた。南が海、三方を山に囲まれた内側には、まちの中心及び基軸として、政権の守護神鶴岡八幡宮とその参道の若宮大路が建設され、山には内外を結ぶために尾根を垂直に掘り下げた「切通」と呼ばれる道が開削された。また、切通近辺の山裾には、大寺院が建立されるなど、鎌倉のまちの基本構造はこの時代にほぼ確立した。

さらに、幕府は宗教政策にも積極的に取り組んだ。特に禅宗は、坐禅と問答によって悟りを開こうとする修行の形式が武士の趣向に合ったことや、茶や美術工芸など当時の最先端を行く中国文化を伴っていたことから手厚く保護され、多くの禅宗寺院が建立された。

中世都市鎌倉は、幕府滅亡後も室町幕府の東国支配の拠点（鎌倉公方）として大いに繁栄したが、公方の移転に伴って徐々に衰退し、戦国時代には静かな農漁村となった。

【鎌倉観光の先駆け】

寒村となった鎌倉にあっても、社寺は時の権力者が鎌倉を武家政権発祥の聖地として保護し続けたことから、唯一命脈を保った。特に、徳川家康をはじめとする江戸幕府の將軍家は源氏を称したため、源氏の棟梁である頼朝が造った鎌倉を重視し、鶴岡八幡宮や建長寺などの社寺の復興に尽力した。

さらに、江戸時代中期以降、歌舞伎や浄瑠璃の演目あるいは地誌などで取り上げられ、七里ヶ浜から江ノ島や富士山を望む浮世絵が頻繁に描かれるようになると、鎌倉は庶民に広く知られるところとなった。そして、頼朝ゆかりの古都、多くの社寺がある名所として、鎌倉は信仰と遊山の対象となり、江戸近郊のいわば観光地となっていく。中でも若宮大路は、その沿道に遊山客を対象とした商店、茶屋、旅籠などが軒を連ね、大いに賑わった。

【別荘地鎌倉】

江戸時代からの認知度の高さに加え、温暖な気候に恵まれ、遠浅の美しい海岸を持つ鎌倉は、まさに東京近郊のリゾート地としての条件を備えていた。

明治初年、日本医学の発展に尽くし、保養の思想を導入したドイツ人医師ベルツは、七里ヶ浜からの眺めを「日本で一番美しい地点である」と日記に残しているが、そこは東に三浦半島、南に伊豆大島、西に江ノ島、そして遥か彼方には雄大な富士山を望む絶景スポットであり、彼がそう記したのも頷ける。

その後、鎌倉は海浜保養の適地とされ、明治20年(1887年)には由比ガ浜にサナトリウム「海濱院」が建設され、海濱院は翌年「海濱ホテル」となった。この頃から多くの人々を受け入れる体制が整い始め、海水浴は瞬く間にレジャーとして定着し、次第に鎌倉の価値が見直されるようになっていった。

さらに、明治時代中期に東海道線、横須賀線が相次いで開通したこと、御用邸が造営されたことによって、多くの政界人、財界人、官僚、軍人、華族などが訪れるようになり、鎌倉には旧加賀藩



南が海、三方を山に囲まれた鎌倉のまち



鶴岡八幡宮



建長寺

賑わう若宮大路の様子
（「諸国道中金の草鞋」より）

前田家別邸（現鎌倉文学館）をはじめとする別荘が建てられた。これを契機に、近代都市としてのまちづくりが進められることになった。

こうした中で、別荘に由来する様々な営みが発展した。日本的な草花の絵柄を中心とした力強い彫刻に、柔らかさと温かみを備えた漆を塗ることを特徴とする「鎌倉彫」は、鎌倉を代表する工芸品であり、土産物や贈答品として重宝されている。これは、仏像や仏具などを製作していた仏師たちが、明治時代に廃仏毀釈によって需要が激減したとき、別荘を構えた上流階級のニーズに合わせ、家具や調度品の製作を主体とするようになり、それが鎌倉彫として広まったものである。

また、別荘に暮らす顧客への品質の高い商品の提供や、別荘を訪問し注文を受け、それぞれの要望に細かく応えるニーズに応える「御用聞き」などのサービスが展開され、鎌倉の商業形態の一つとして確立した。

【鎌倉文士^{かまくらぶんし}】

別荘地として発展していくにつれ、東京からほど近く最も身近な古都であった鎌倉には、多くの文人墨客が住まうようになり、活発な文芸活動が展開された。当初は白樺派を中心とした作家たちが集住していたが、その後、日本人で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成や、時代小説「鞍馬^{くらま}天狗^{てんぐ}」で知られる大佛次郎^{おさらぎじろう}など、志を同じくする者たちが追随し、彼らはやがて「鎌倉文士」と呼ばれるようになった。彼らは、中世以来脈々と続く古都鎌倉の趣に憧憬を抱き、社寺がたたずみ静寂さが漂う^{やと}谷戸に洋風・和風の住宅を建て文筆活動に励んだ。その作品には鎌倉の社寺やまちなみが数多く登場する。

鎌倉文士は地域にも貢献したが、最も象徴的な出来事は「御谷騒動^{おやつ}」である。鎌倉にも昭和 35 年頃から宅地造成の波が押し寄せ、聖域ともいえる鶴岡八幡宮の裏山「御谷」にまで開発の手が伸びた。この時、彼らは市民や僧侶らと共に開発現場でブルドーザーの前に立ちはだかり、反対運動を行った。結果的に御谷は守られ、これがきっかけとなり古都保存法が制定されたことによって、歴史的遺産と緑とが調和した鎌倉特有の景観が守られることとなった。

また、鎌倉文士はかつて夏の風物詩であった「鎌倉カーニバル」や、今も続く鶴岡八幡宮の「ぼんぼり祭」などを発案し、まちを盛り上げた。夕暮れ時、鎌倉在住の作家、画家、書家など各界で活躍する人々が描いたぼんぼりが境内に一直線に灯された様は、中世と近代が融合した象徴的な風情である。

そして、近代の鎌倉では、鎌倉文士のみならず、映画監督の小津安二郎をはじめ、俳優や画家など多くの芸術家も暮らしたことから、古都としての歴史に加え、近代芸術の新たな文化を創出するまちとなった。

【歴史と文化が描くモザイク画】

頼朝が鎌倉幕府を開いてより 800 有余年。この地に活きた武士たちの歴史と哀愁を感じられる古都鎌倉は、江戸時代には信仰と遊山の対象として脚光を浴び、明治時代から大正時代には別荘が建てられ、近代都市としてのまちづくりが進められた。そうした中にあっても、歴史的遺産と自然とが調和したまちの姿は、多くの人々によって守り伝えられてきた。

このような歴史を持つ古都鎌倉は、自然と一体となった中世以来の社寺が醸し出す雰囲気の中に、各時代の建築や土木遺構、鎌倉文士らが残した芸術文化、生業や行事^{なりわい}など様々な要素が、まるでモザイク画のように組み合わせられた特別なまちとなったのである。



鎌倉文学館（旧前田家別邸）



鎌倉彫



鎌倉カーニバルの様子



ぼんぼり祭

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	つるがおかはちまんぐう 鶴岡八幡宮	国史跡、 国重文（建造物）、県史跡、市指定 （建造物、天然記念物）	源頼朝が鎌倉のまちの中心に据えた、武家政権の守護神。 武家政権と武家から篤く崇敬されたことに加え、幕府の宗教政策上の中心的な施設として、公式行事が執り行われるなど、政治・儀礼の舞台としても重要な場所であった。	
2	わかみややおおじ 若宮大路	国史跡、国重文（建造物）	鶴岡八幡宮の参道。頼朝が妻・政子の安産を願って造ったもので、中世から変わらず「鎌倉」の中心軸となる道である。 中央に一段高い道、段葛がある。	
3	えがらてんじんしゃ 荏柄天神社	国史跡、重文（建造物）	頼朝により、幕府の鬼門（北東）を鎮護する神として祀られた。また、鎌倉文士が中心となって立ち上げた鎌倉ペンクラブの一員であった漫画家横山隆一による絵筆塚がある。	
4	かまくらぐう 鎌倉宮	未指定	明治天皇の勅命によって創建され、南北朝期に非業の死を遂げた護良親王を祭神とする神社。創建後、皇族や華族が鎌倉を訪れ、御用邸、別荘が建てられる契機の一つとなった。 作家立原正秋がここで執り行われる能を題材として『薪能』を著わすなど、文士の創作の舞台ともなった。	
5	ごりょうじんじや 御霊神社	県指定（無形民俗）、市指定（有形民俗）、市（天然記念物）	鎌倉の特徴的行事の一つで、中世の「伎楽面風流」に起源があるとされる面掛行列が行われる。 小説家で詩人の国木田独歩が境内やその近くに住むなど、文士の創作活動が行われた。	

6	こゆるぎじんじや 小動神社	未指定	海に突き出した小動山に建ち、相模湾を一望する。頼朝に仕えた佐々木盛綱による創建。 小説家太宰治が小動岬で心中を図り、その体験を『道化の華』に著わすなど、文士の創作の舞台となった。	
7	ぜにあらいへんざいてん う が ふくじんじや 銭洗弁財天宇賀福神社	未指定	文治元年（1185）の巳の月の巳の日に宇賀福神が頼朝の夢に現れ、その教えに従いこの地に宇賀福神を祀ったところ、平安な世が訪れたとの言い伝えがある。	
8	かまくらだいぶつ 鎌倉大仏 (銅造阿弥陀如来坐像)	国史跡、 国宝（彫刻）	武家政権と民衆の安寧を願って造立された鑄造仏。 中世に鑄造されたときのまま露座に佇むその姿は、多くの作品の題材となった。 長谷の大仏裏に住んでいた大佛次郎は筆名を、大仏を太郎とし、自らは次郎と謙遜し名付けたとのエピソードがある。歌人と謝野晶子が「美男におはす」と詠んだことでも知られる。	
9	けんちやうじ 建長寺	国史跡、重文 (建造物)、 国名勝、県指定 (建造物)、市指定 (天然記念物)	鎌倉五山の第一位。鎌倉時代、第五代執権北条時頼によって建立された日本初の禅宗専門寺院。 付近には亀ヶ谷坂の切通があり、鎌倉の交通上・防衛上の重要な箇所だった。	
10	えんがくじ 円覚寺	国史跡、 国宝（建造物）、 県指定（建造物）、 市指定（建造物、天然記念物）、 国名勝	鎌倉五山の第二位。建長寺に続き建立された禅宗専門寺院。 夏目漱石が『門』の中で描いた他、島崎藤村、有島武郎らも執筆のために訪れるなど、多くの文士の創作の舞台や創作活動の場となった。	
11	じゅふくじ 寿福寺	国史跡、市指定 (建造物、 天然記念物)	鎌倉五山の第三位。頼朝の父、源義朝の館跡と伝えられ、源氏の由緒を示す。茶を広めた栄西がひらいた鎌倉最初の禅宗寺院。 詩人中原中也が亡くなる直前に境内に住まうなど、文士の創作活動の場となった。	
12	じやうちじ 浄智寺	国史跡	鎌倉五山の第四位。第五代執権北条時頼の三男である北条宗政の菩提を弔うために創建された禅宗寺院。 日本画家小倉遊亀が近くに暮らし、創作活動を行った。	

13	じょうみょうじ 浄妙寺	国史跡	鎌倉五山の第五位。頼朝の忠臣で剛勇の武士であった足利義兼によって創建された。 室町時代に鎌倉公方として東国の政權を担った足利氏の菩提寺。	
14	すぎもとでら 杉本寺	県指定（建造物）	天平の頃に建立されたと伝わる鎌倉最古の寺院。頼朝が修造を行った。	
15	ほうかいじ 宝戒寺	未指定	北条氏滅亡後、その霊を弔うため、北条氏得宗家の屋敷跡に建立された。	
16	かくおんじ 覚園寺	国史跡、重文（建造物）、 県指定（建造物）、県史跡	第二代執権北条義時が 1218 年に大倉薬師堂を建立したのが始まり。1296 年に真言・天台・禅・浄土の四宗兼学道場として整備された。境内は中世の面影をよく残している。	
17	じょうこうみょうじ 浄光明寺	国史跡、重文（建造物）、 市指定（建造物）、市史跡	第六代執権北条長時が創建。室町時代には鎌倉公方の菩提寺となった。亀ヶ谷坂の切通近くに位置し、鎌倉の交通上及び防御上の最も重要な地域に営まれた寺院である。	
18	みょうおういん 明王院	未指定	鎌倉幕府の第四代将軍藤原頼経により国家の安泰を祈願して建立され、以後、幕府・将軍家の祈願所として重んじられた。鎌倉将軍家建立の寺としては現存する唯一のものである。	
19	じょうじゅいん 成就院	市文化財（建造物）	第三代執権北条泰時により、鎌倉の守りとして極楽寺坂脇に建立された。1333 年、幕府が滅亡した鎌倉攻めの際に焼失し、一時別の場所に移されたが、江戸時代に元の場所に再建された。	
20	えいしょうじ 英勝寺	重文（建造物）	徳川家康の側室となったお梶の方が祖先太田道灌の屋敷跡に建立させた。徳川光圀が鎌倉や武州金沢の史跡・名勝を巡覧した際、宿所とした。	
21	こうみょうじ 光明寺	重文（建造物）、県指定（建造物）、 市指定（建造物）、市史跡	浄土宗の大本山。第四代執権北条経時の創建。 戦後復興の過程で、文人・学者等が集まって開校した市民大学「鎌倉アカデミア」の仮校舎となった。	

22	めいげついん 明月院	国史跡	山ノ内俊道追善の為、嫡子経俊が創建の明月庵が元。約百年後第五代執権北条時頼が出家のため建立した最明寺を前身に、息子時宗が禅興寺を再興。更に百年後、上杉憲方が支院の首位に置く。時代の変遷とともにその由緒を伝えている。	
23	ほうこくじ 報国寺	未指定	竹寺として知られる禅宗寺院。足利氏の祖先供養のため上杉氏が開いた。	
24	とうけいじ 東慶寺	未指定	第八代執権北条時宗夫人の覚山志道尼が開創。 駆け込めば離縁できる女人救済の寺として、明治に至るまで縁切りの寺法を引き継いできた。	
25	ずいせんじ 瑞泉寺	国史跡、国名勝	鎌倉公方の菩提寺とされた禅宗寺院。岩盤を穿った庭園は、禅の思想と庭が融合したものである。 鎌倉における禅宗文学の中心の一つ。作家永井龍男が『秋』の舞台とするなど、文士の創作の舞台となった。	
26	ほんがくじ 本覚寺	未指定	境内は「吾妻鏡」に見える夷堂の地といわれている。身延山から日蓮の遺骨を分骨して納められた。	
27	みょうほんじ 妙本寺	未指定	日蓮開山の、日蓮宗最古の寺院。北条一族によって滅ぼされた比企一族を弔うために建立された。	
28	あんこくろんじ 安国論寺	未指定	日蓮宗の寺院。日蓮が草庵を結び「立正安国論」を著わした場所とされる。	
29	ごくらくじ 極楽寺	国史跡、重文(建造物)	第二代執権北条義時の三男、重時が建立した真言律宗の寺院。極楽寺坂の切通という鎌倉から京都方面へ向かう交通上また防衛上の重要な箇所配置された。	
30	はせでら 長谷寺	市文化財(建造物)	古くから坂東観音霊場の第四番札所として民衆の信仰を集めてきた。 評論家高山樗牛が境内の慈眼院やその隣接地に居住するなど、文士の創作活動の場となった。	

31	おおまちしゃかどうぐち 大町釈迦堂口遺跡	国史跡	釈迦堂切通は、浄明寺と大町を往来する道。 作家永井路子が『炎環』を著わすなど、文士の創作の舞台となった。	
32	ほっけどうあと (源頼朝墓・北条義時墓)	国史跡	頼朝と第二代執権北条義時の死後の冥福を祈る建物（法華堂）が建てられた跡であり、現在は石塔が建っている。	
33	ようふくじあと 永福寺跡	国史跡	頼朝が、奥州藤原氏、弟源義経をはじめ合戦による戦死者の冥福を祈って建設した寺院跡。将軍家の別荘的性格も持っていた。当時の伽藍配置やその変遷、苑池や遣水などの遺構が復元されている。	
34	あさいなきりどおし 朝夷奈切通	国史跡	中世都市鎌倉の内外を結ぶための交通路として造られた。	
35	けはいざか 仮粧坂	国史跡		
36	だいぶつきりどおし 大仏切通	国史跡		
37	なごえきりどおし 名越切通	国史跡		
38	鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)	国登録有形文化財	鎌倉三大洋館の一つ。加賀百万石の藩主で知られる、旧前田侯爵家の鎌倉別邸。昭和 60 年、鎌倉ゆかりの文学者の著書・原稿・愛用品などの文学資料を収集保存し、展示することを目的として鎌倉文学館が開館した。	
39	きゅうかちょうのみやてい 旧華頂宮邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉三大洋館の一つ。華頂博信侯爵が自身の邸として建てた。洋風民家が幾何学式庭園、樹木と一体となり、往時の華やかな暮らしを彷彿とさせる。	

40	きゅうかわきたていべつてい 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)	景観重要建造物	生涯を通じて外国映画の輸入と配給、海外への日本映画紹介などに情熱を注いだ川喜多夫妻ゆかりの建物。東京にあった哲学者和辻哲郎の住宅を移築したもので、もとは大山にあった古民家を解体移築したと伝わる。夫妻はここを海外から訪れる映画監督やスターたちを迎える場とした。	
41	せんこさんそう 扇湖山荘	未指定	古都鎌倉の風情に惹かれた「ワカモト製菓」創業者の長尾欽彌が別荘として建てた。杉木立から海が扇形に見えることから名付けられた。	
42	きゅうもろとてい 旧諸戸邸	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	株式仲買人として財を成した福島浪蔵の別邸として建てられ、後に諸戸清六別邸となった。明治期の住宅建築の貴重な遺構であり、造形意匠の密度においては、県内でも最高のものである。	
43	よしやのぶこ 吉屋信子記念館	国登録有形文化財	小説家吉屋信子が暮らした邸宅が、ありし日のままに保存されている。建物は、吉田五十八（近代数寄屋建築の第一人者）により設計されたもの。	
44	石川邸 きゅうさとみとんてい (旧里見淳邸)	市景観重要建築物等	鎌倉文士の中心的存在であった作家里見淳が自ら設計に関り、住んだ家である。	
45	こがてい 古我邸	未指定	鎌倉三大洋館の一つ。三菱合資会社（後の三菱財閥）の専務理事兼管事をしていた荘清次郎の別荘として建てられた。	
46	らいてい 櫛亭	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	鎌倉山の分譲を行った菅原通済の父であり、鉄道事業家・土木技術者として知られる菅原恒覧の別荘として建てられた。 本館は、江戸時代の建造で横浜市戸塚の豪農の旧宅を移転改築し、和洋折衷の住宅としたもの。	
47	すんしょうどう 寸松堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。	
48	はくじつどう 白日堂	市景観重要建築物等	別荘地化の中で発展した鎌倉彫、その歴史を今に伝える商店兼住宅として貴重な存在である。	
49	みかわや 三河屋本店	国登録有形文化財、市景観重要建築物等	明治 33 年創業の酒店で、伝統的な出桁造りの店構えが若宮大路の沿道でひときわ目を引く。観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。	

50	湯浅物産館 ゆあさ	市景観重要建築物等	明治 30 年に貝細工の製造加工・卸売りの店舗として創業した。若宮大路の中ほどに位置し、観光地として発展した鎌倉の姿を想起させる。	
51	流鏑馬 やぶさめ	未指定	武者姿の射手が疾走する馬上から 3 つの的を射抜く鎌倉時代からの伝統神事。頼朝が鶴岡八幡宮の放生会で奉納した流鏑馬が始まりとされる。	
52	ぼんぼり（雪洞）祭	未指定	毎年 8 月に鶴岡八幡宮境内で行われる、鎌倉の夏の風物詩ともいえる祭。鎌倉ペンクラブのメンバーが中心となってぼんぼりを並べたのが始まり。	
53	鎌倉名所記	未指定	江戸時代の鎌倉の名所をまとめた案内記。名所めぐりの際に携帯するためのいわばガイドブックである。	
54	鎌倉彫 かまくらぼり	経産省大臣指定伝統的工芸品	鎌倉を代表する伝統的工芸品。13 世紀半ばに禅宗の移入に伴い宋から伝えられた美術工芸品を祖とする。近代以降、鎌倉が別荘地となる中で発展、浸透した。	
55	旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館 きゅうかいながわけんりつきんだいびじゅつかんかまくらかんほんかん	県指定（建造物）	現代建築の巨匠ル・コルビュジエに師事した坂倉準三設計の建築で、日本初の公立近代美術館。日本の近代美術を牽引すると同時に、近代芸術の新たな文化を創出した拠点の一つ。	
56	神霊教鎌倉錬成場 （旧山本条太郎邸） しんれいきようかまくられんせいじょうきゅうやまもとじょうたろうてい	国登録有形文化財（建造物）	南満州鉄道株式会社総裁を務めた山本条太郎の別荘として建てられた。敷地や庭も含め、創建当初の建物がほぼ完全に現存しており、当時の生活像をうかがうことができる貴重な建物。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

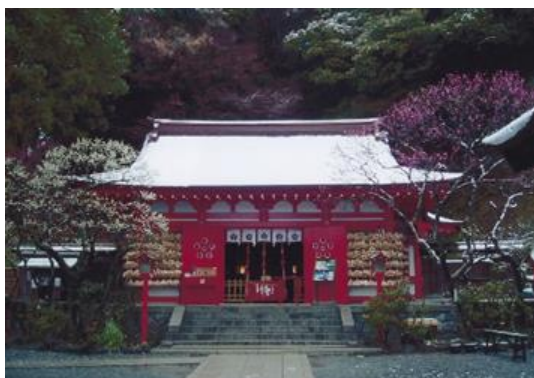
1 鶴岡八幡宮



2 若宮大路



3 荏柄天神社



4 鎌倉宮 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



5 御霊神社 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



6 小動神社



7 銭洗弁財天宇賀福神社



8 鎌倉大仏（銅造阿弥陀如来坐像）



9 建長寺



10 円覚寺



11 寿福寺



12 浄智寺



13 浄妙寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



14 杉本寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



15 宝戒寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



16 覚園寺



17 浄光明寺



18 明王院



19 成就院



20 英勝寺



21 光明寺



22 明月院



23 報国寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



24 東慶寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



25 瑞泉寺



26 本覚寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



27 妙本寺



28 安国論寺



29 極楽寺



30 長谷寺 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



31 大町釈迦堂口遺跡

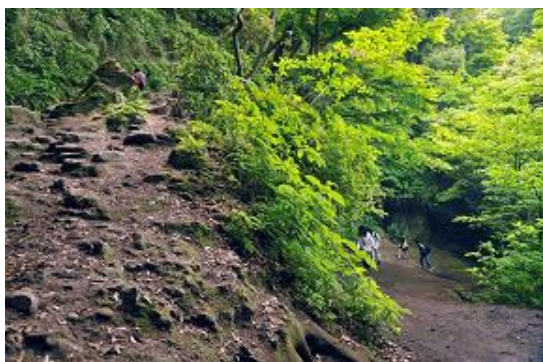
(写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



33 永福寺跡



35 仮粧坂 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



37 名越切通 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



32 法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓)



34 朝夷奈切通



36 大仏切通



38 鎌倉文学館 (旧前田家鎌倉別邸)



39 旧華頂宮邸



40 旧川喜多邸別邸 (旧和辻邸)



41 扇湖山荘



42 旧諸戸邸



43 吉屋信子記念館



44 石川邸 (旧里見弴邸)



45 古我邸



46 榎亭



47 寸松堂



48 白日堂



49 三河屋本店



50 湯浅物産館



51 流鏝馬 (写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)

鎌倉まつり



鶴岡八幡宮例大祭



52 ぼんぼり（雪洞）祭

(写真提供：公益社団法人鎌倉市観光協会)



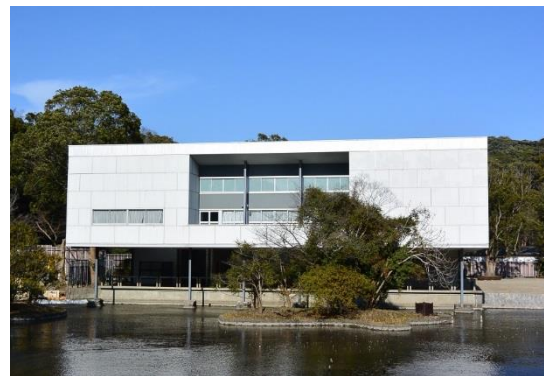
53 鎌倉名所記



54 鎌倉彫



55 旧神奈川県立近代美術館鎌倉館本館



56 神霊教鎌倉錬成場（旧山本条太郎邸）



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
25	「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～

(1) 将来像（ビジョン）

鎌倉は、中世からの寺社や近代の洋館など各時代の歴史的遺産が織りなす風景、鎌倉文士らが残した芸術文化、四季折々の花のみどころ、自然景観といった多種多様な魅力がモザイク画のように合わさっていることが魅力であり、日本遺産ストーリーとして認定されている。モザイクのピースそれぞれの魅力を認識してもらいながら、それらが折り重なったものが鎌倉の魅力であるという、鎌倉の日本遺産ストーリーを地域内外の人々に体感してもらい、認識してもらうことを通じて、歴史的遺産と自然とが調和した鎌倉のまちの姿を後世へ、守り、伝えていくことを目指している。

日本遺産ストーリーを通じて、鎌倉の良さを時代ごとに分かりやすく伝えてゆくことで、これまでの住民が行ってきたことを知り、これからの住民が行っていくことの礎となつて、新たなモザイクを重ねていくこととなり、ひいては鎌倉の新たな歴史が形作られ、鎌倉の新たな日本遺産の一部となっていくのである。その実現のためには、市内市外問わず、学校授業への出張講演や全戸配布による広報紙への掲載を行うなど、市民一人ひとりへの意識付けを実施していく必要がある。

また、社寺や文化関係者による取り組みを観光事業者と連携し、広く普及することで、観光事業者にとっても漠然としたイメージだけではない、確かな手がかりとそこに生きる人々との繋がりを得られるようにすることで、短期的な事業だけではなく、長期的な生業としての取組に繋がられるようになり、そういった取組もまた新たな日本遺産となっていくのである。連携を進めるためには、旅行事業者によるツアー販売だけでなく、だれもが日本遺産ストーリーの語り手となれるよう、学び、伝えられる場を設ける必要がある。

鎌倉における日本遺産ストーリーとは、来訪者、住民及び民間事業者のいずれにとっても、歴史と文化が描くモザイク画のまちという切り口により、鎌倉とはどういった場所であるのかを端的に伝える役割を担うものである。市民や関係者一人ひとりが果たす役割の積み重ねにより、モザイク画のピースはさらに鮮やかになり、それが自分たちもモザイク画を作り上げていく一員であるとの意識を高め、文化遺産を後世に守り伝える取り組みへと繋がっていく好循環を生み出していくのである。

なお、鎌倉市観光基本計画では第1期計画以来、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える観光都市となることを基本方針としている。また、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づく「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」において、歴史的遺産等について広く周知するとともに、守り伝えることの意義を認識してもらうことが重要であると位置づけている。本市の日本遺産事業は、これらの計画の考え方に基づき実施しているところだが、今後策定する次期計画観光基本計画においては日本遺産事業の位置付けをさらに明確にしていく。

さらに、令和２年６月に策定した鎌倉市にふさわしい博物館基本構想においては、市域全域を博物館と捉え、地域住民等が主役となって地域資源を保存・活用していくエコミュージアムの考え方を取り入れた博物館を構築することとしている。本市の目指す日本遺産の考え方と当該構想とは方向性が類似していることや、この構想の中で取扱うサテライト施設については、構成文化財などを想定しており、当該構想との連携も図りながら、地域住民等の参加のもと、構成文化財の活用を図っていく仕組みづくりを進める。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産案内施設における来訪者数

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	－	－	－	6万人	16万人	20万人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産ストーリー体験への入り口として、日本遺産案内施設を設置し、施設の来訪者数を指標として設定。令和6年度までに、コロナ禍前の観光案内所利用者数約20万人に回復する目標設定とする。令和4年度の数値は、当該年度上半期の実績をベースとしている。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：鎌倉市民の日本遺産認知度（市民意識調査）

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	－	－	－	40%	50%	60%
目標値の設定の考え方及び把握方法		鎌倉市民における日本遺産の認知度を市の総合計画の評価指標を計るため実施している、市民意識調査により把握。毎年10%増の認知度向上を目指す。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③－A：日本遺産関連ツアーの売上

年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	－	－	1,320千円	4,000千円	4,000千円	4,500千円
目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産関連ツアーの参加人数に参加費用を乗じた売上。事業費相当額の売上を目標とする。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：ふるさと納税寄附額						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	181,005 千円	252,688 千円	234,525 千円	223,000 千円	223,000 千円	223,000 千円
目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産の持続的な保存には金銭的な負担が必須となるため、日本遺産の保存・活用等を目的としたふるさと納税の寄付額を指標とする。過去3年の平均値維持を目標とする。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：観光消費額						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	710億円	213億円	238億円	426億円	568億円	710億円
目標値の設定の考え方 及び把握方法	市内各地に所在する日本遺産への認知来訪周遊により滞在時間が増加し、最終的に全体の観光消費額に現れるため指標として設定する。数値は神奈川県入込観光客調査を基に作成する「鎌倉市の観光事情」より取得。令和6年度までに、コロナ禍前の観光消費額に回復する目標設定とする。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

○実績

- ・過去6年間はストーリーに基づき、パンフレット、ポスターや映像資料の作成及び提供、案内板・ルート板の設置、SNSでの情報発信、ツアー商品の造成など構成文化財を含む鎌倉の魅力の積極的なプロモーションを実施した。
- ・令和2年度から日本遺産事業が歴史まちづくり推進担当から、歴史的遺産、文化財を総合的に活用して、より多くの方に理解を深めてもらうため、観光課の所管となった。
- ・日本遺産プロモーション映像の作成にあたっては、多種多様な魅力を発信するため、武家文化、禅、文学、芸術等様々な分野の関係者の映像協力を得ながら作成を行った。
- ・日本遺産サミット小松に出展した際には、事業者からお借りした鎌倉彫を展示し、実物の魅力の発信を行った。また、アンケートを実施し、需要を把握することができた。
- ・鎌倉の日本遺産構成文化財は市内各所に存在し、多様な紹介を行うことで、観光客の分散化への寄与、複数回来訪者への鎌倉の新たな魅力のPRも可能となった。
- ・以上から、これら成果物を活用したプロモーションの仕組み構築という成果を得た。

○今後について

(1) 基本方針

鎌倉の日本遺産ストーリーの活用を通じて、鎌倉の文化遺産の価値を多くの人々に認識してもらうために、構成文化財を観光に活用し、もって、貴重な文化遺産を後世に向けて守り、伝えていくことを目指す。

(2) 構成文化財の保存

構成文化財の維持、修繕等保存、活用のベースとなる必要な支援を行う。

(3) 取組方針

ア 鎌倉の日本遺産ストーリーは総体的、包括的な内容であることから、これをトータルで認識してもらうための取組を行うとともに、同時に、日本遺産ストーリーを時代やテーマごとにモザイクのピースごとの魅力やその価値を深く知ってもらうための取組を行う。

イ 特に、構成文化財でもこれまでスポットライトが比較的あたってこなかったところなどの認知度向上を目指す。

ウ 具体的には、日本遺産をめぐるツアー造成やガイドツアーの実施、情報発信事業などの取組を実施し、日本遺産を目的とした観光が鎌倉観光の一つのコンテンツとなることを目指す。

エ 鎌倉市の観光行政課題であるオーバーツーリズムの解消、インバウンド誘致等の施策とも連動し、日本遺産の取組を通じて、これらの課題解決に取り組む。

オ 鎌倉市の最上位計画である鎌倉市総合計画の時期計画、及び次期鎌倉市観光基本計画において、日本遺産の取組を位置づけることを検討する。

カ こういった取組を実施する上では、核となる構成資産関係者やその所在地域の事業者など、的を絞った関係者による実施体制をその都度構築し、効率的な組織体制とする。

○組織整備

- (1) 日本遺産いざ鎌倉協議会のもとに、整備、広報、ツアー造成など、プロジェクトベースごとに部会を設置し、そこに関係する社寺、観光関連団体、企業等を巻き込み、日本遺産の取組を理解、共有、参画した体制を令和5年度中に構築する。
- (2) 日本遺産いざ鎌倉協議会に（仮）日本遺産事業推進検討会を令和4年度中に設置し、日本遺産事業全体のプロデュース機能をもたせ、企画調整と協議会の支援にあたる。検討会構成者（幹事）は市の関係部署の管理職から任命する。
- (3) 令和5年度に新たに、協議会において日本遺産事業推進担当者を配置し、観光事業者や市民への啓発活動、観光ツアー造成等及び日本遺産事業全般における企画実施、連絡調整を担い、ここでの蓄積を元に、地域プロデューサーを擁立していく。

○戦略立案

- (1) 鎌倉市観光基本計画では第1期計画以来、誰もが「住んでよかった、訪れてよかった」と思える観光都市となることを基本方針としている。また、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律に基づく「鎌倉市歴史的風致維持向上計画」において、歴史的遺産等について広く周知するとともに、守り伝えることの意義を認識してもらうことが重要であると位置づけている。本市の日本遺産事業は、これら現行計画の考え方にに基づき実施していく。
- (2) 年4回実施の入込観光客数調査時に合わせて実施しているアンケートに項目追加
- (3) （仮）日本遺産事業推進検討会を令和4年度中に設置し、日本遺産事業全体のプロデュース機能をもたせ、横断的な実施検討、調整体制を整備し、日本遺産いざ鎌倉協議会における戦略立案、事業企画実施を支援する。検討会構成者（幹事）は市の関係部署の管理職から任命する。
- (4) 本市の最上位計画である次期総合計画及び次期観光基本計画における位置づけの確定（令和8年度施行に向けて作業）

○人材育成

- (1) 協議会において日本遺産事業推進担当者を配置し、観光事業者や市民への啓発活動、観光ツアー造成等及び日本遺産事業全般における企画実施、連絡調整を担い、ここでの蓄積を元に、地域プロデューサーを擁立する。地域プロデューサーは、文化財の維持修繕や教育活動、観光など日本遺産事業の各分野に見識を持ち、鎌倉の歴史文化に造詣が深く、かつ実務的な能力も併せ持つ人材を新たに確保する。その上で、その地域プロデューサーを補佐する実務人材を配置することで、将来的な継続体制を確立することを目指す。
- (2) 鎌倉ガイド協会や通訳ガイド、観光案内所スタッフへの研修支援を実施。
- (3) 鎌倉市においては多様な活動主体が様々な取り組みを実施しており、これらの活動支援を中心に事業を継続する。

○整備

(1) 日本遺産案内窓口の整備

JR鎌倉駅東口にある鎌倉市観光総合案内所について、令和4年度より順次日本遺産案内窓口としての整備を行うとともに、令和5年度以降、鎌倉文学館や鎌倉歴史文化交流館などの文化施設においても日本遺産の案内を行うよう体制を整備する。

(2) 文化施設における日本遺産コーナーの拡充

事前情報のない来訪者に対しても日本遺産ストーリーに触れられる機会を増やすため、令和5年度以降、既存の展示コーナーの再配置や露出の調整を行う。

(3) 日本遺産案内板の整備

既存の案内板のない場所にも構成文化財から他の構成文化財へ観光客を誘導するような面的な案内表示の整備を行い、日本遺産ストーリーに触れていただく機会を提供することで、鎌倉を事前情報なく訪れた観光客にも楽しみながら鎌倉の歴史や文化に触れることのできるまちづくりを進める。これは、構成文化遺産への興味・関心と訪れた観光客の楽しみを増幅するものであり、並行して整備する日本遺産ホームページ（観光公式HP内）との連携などICTも活用した整備について調査、研究、検討を行い、令和5年度以降の予算化・実施を目指す。

(4) 多言語観光案内板への日本遺産ストーリー説明機能の付与

鎌倉を訪れた訪日外国人旅行者にも、鎌倉の歴史や文化等とそれと共生するまちの姿に触れていただき、楽しみながら理解を深めていただけるよう、既存の多言語観光案内板に共架する形でQRコードなどにより日本遺産ストーリーや構成文化財へのアクセスを高める。これは上記（3）とも連動して一体的な整備に努める。また、多言語解説においては、知見を持つネイティブのチェックができるように努める。

○観光事業化

(1) ツアー造成

日本遺産構成文化財に限らず、文化財の保存事業や伝統的な事業などを基点として日本遺産ストーリーに触れる機会が得られるようツアーの造成を行う。

また、観光庁などで実施する地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業などの補助事業を活用し、高単価少人数実施による安定した販売体制の構築を目指す。

(2) 日本遺産ツアーの販売

- ・建長寺：通常拝観することのできない場所への特別拝観、「もったいない精神」から生まれたけんちん汁発祥の寺としてそのストーリーとともにけんちん汁の提供。これらを僧侶による案内による実施。令和5年度の商品化、販売。
- ・覚園寺：僧侶による特別拝観とともに、世界で一つだけの「鎌倉守」づくり体験として、仏師が仏像を彫る際に彫り落とされる神聖な経木から作られた貴重な守り札を入れて作る文化体験を実施。令和5年度の商品化、販売。
- ・光明寺：僧侶による特別拝観とともに、通常見ることのできない本堂の令和の大改修の様子を見学することで、国の重要文化財でもある日本遺産構成文化財の真髄に触れられるように触れる機会を提供。令和5年度の商品化、販売。

- ・このほか、平成29年度にモニターツアーを行った、流鏝馬見学ツアー、鎌倉彫体験ツアーの催行

(3) 日本遺産関連ツアーの実施

NP0法人鎌倉ガイド協会において、日本遺産ストーリー全体、サブストーリー又はモザイクの一部に焦点をあてたツアー催行について、令和5年度からの実施に向けて調整する。

(4) 民間事業者による観光事業との連携

MaaSを活用した公共交通機関による鎌倉の日本遺産をめぐるツアーについて、民間事業者と連携して令和4年度に造成を行い、5年度に商品化する。

○普及啓発

- ・全戸配布の広報紙や鎌倉市観光総合案内所での発信
- ・これまでも、市内の小中学校においては、鎌倉の歴史、文化、自然についての学び、郷土学習が行われているが、出前事業、校外学習及び副教材の活用などによりこれらのさらなる充実を支援する。
- ・「課外授業ガイド」を通じて、市外の小中学生に対して、鎌倉の歴史や文化に対する学びを支援する。
- ・令和5年度以降に発行する鎌倉市作成の観光マップ等における日本遺産ストーリー及び構成文化財の表示を強化するための改定作業を令和4年度に実施する。
- ・日本遺産サミット等各種イベントへ出展し、鎌倉の日本遺産ストーリーの紹介や誘客を行う。令和4年度は下関サミットに出展する。
- ・日本遺産ストーリーでめぐる日本遺産のしおり作成を令和5年度に発行する。

○情報発信及び周知啓発

- ・令和4年度下半期から、鎌倉市観光総合案内所における日本遺産ガイドセンター機能を付加し、情報発信を強化する。
- ・令和5年度に新たに協議会が配置する日本遺産事業推進担当者を中心として、日本遺産を切り口とした活動や事業化などについての開かれた窓口を開設する。
- ・令和4年度下半期から、包括連携協定を結んでいる大学と連携し、学生目線での情報発信を通じて鎌倉の日本遺産ストーリーや構成文化財をアピールする。
- ・ホームページ「鎌倉観光公式ガイド」やSNSでの日本遺産ストーリーの情報発信強化に向けて、令和5年度に改修を行う予定。
- ・イベントへの構成団体との共同出展・物販の推進。

(4) 実施体制

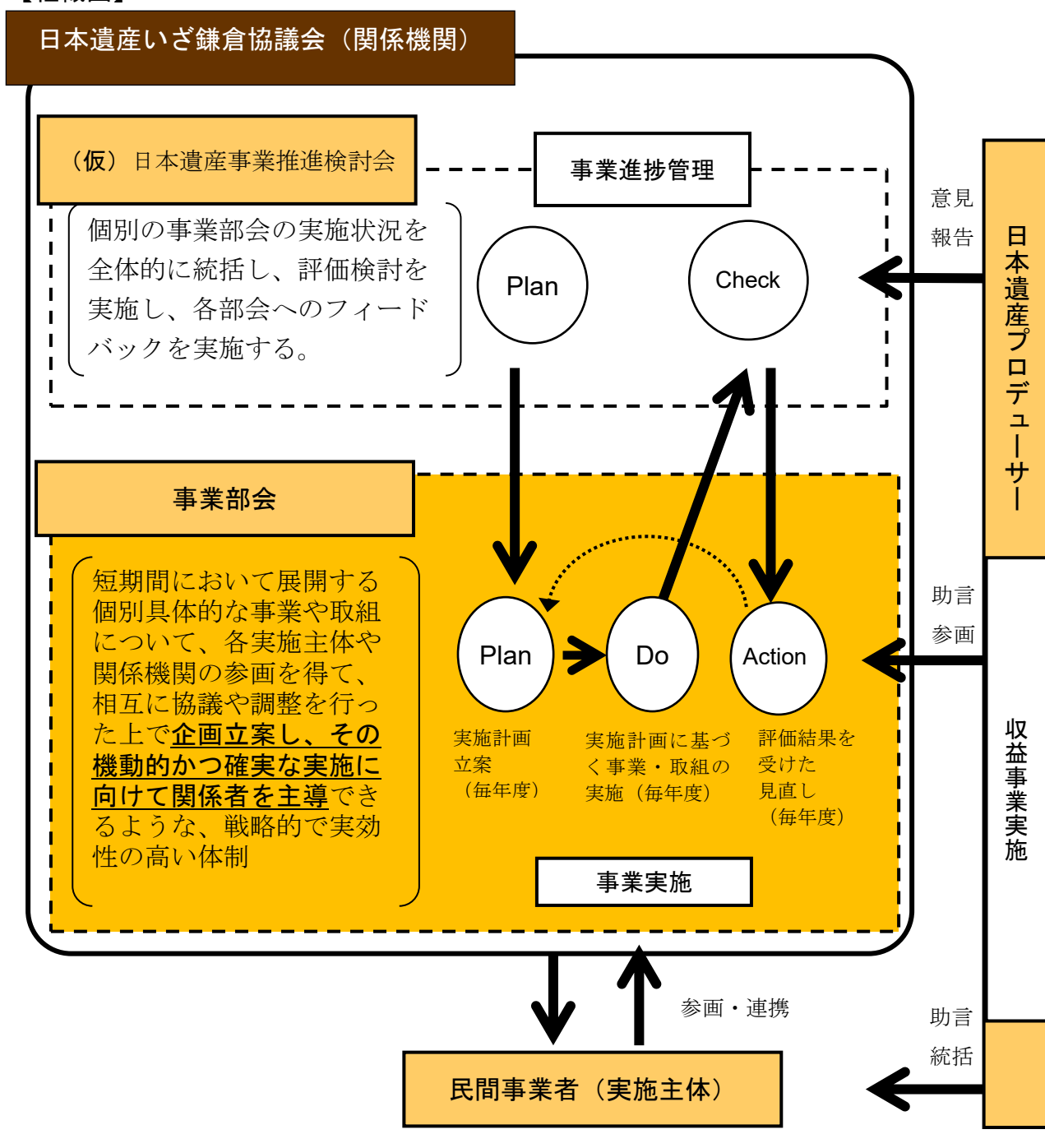
日本遺産いざ鎌倉協議会（現体制）

【構成団体】

(1) 公益社団法人鎌倉市観光協会（会長が協議会副会長）(2) 鎌倉商工会議所（会頭が協議会委員）(3) 公益財団法人鎌倉風致保存会（理事長が協議会監事）(4) 鎌倉市（副市長が協議会会長）

- ・令和4年度には協議会に（仮）日本遺産事業推進検討会を設置し、当協議会における事業の企画調整を行う。
- ・令和5年度以降に、協議会においてプロジェクトベースの事業部会を設置しプランニングを担うとともに、日本遺産推進担当者の新規配置を行う。

【組織図】



[人材育成・確保の方針]

- ・文化財的視点をもった人材と観光戦略的な視点をもった人材の育成を図り、日本遺産事業全体の調整を実施できる体制を構築する。
- ・人材育成にあたっては、文化財経験者及び観光経験者の採用及び外部戦略人材の招へいにより後進の育成を行う。
- ・民間側では学校等での取り組みにおいて、出張講義等を実施するだけでなく学生目線での提案をしてもらい、関係団体と連携する提案内容として事業化することで、主体性や課題解決能力の向上を図り鎌倉観光に寄与する人材を発掘、ひいては社会で活躍できる人材を育成する。

(５) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

鎌倉市が積極的に推進していく立場にあることから、必須な事業については市からの負担金を収入として計上していくとともに自立した基盤を確立するための協議会独自の歳入を確保する。具体的には、イベントへの共同出展・物販を推進する、作成パンフレットへ広告を掲載することで民間企業の協力及び連携を図り歳入確保を狙う。

また、ふるさと寄付金及び構成文化財所有者等が文化財関連等の補助金制度を利用して得た収入等により、構成文化財の修繕、施設整備及び周知啓発事業を実施する。

なお、日本遺産事業推進担当者は着地型観光事業と連携した収益事業も実施し、ライセンス事業などの実施も検討して組織運営費用の捻出も行う。

(６) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- ・国・県・市の指定を受けている文化財（建造物）のうち、修理が必要なものについて、修理費用の助成を行う。
- ・市景観重要建築物等の保存又は活用のために必要な修繕、又は外観の修景を含めた工事に対する助成金を交付する。
- ・歴史的風致形成建造物について、保存活用を図るため、必要に応じて耐震調査や耐震設計、内装の修理や外観の修理を含めた工事等を行う。
- ・毎年実施する行事、鎌倉まつりで流鏑馬を披露し伝統文化の普及啓発と継承を図る。
- ・鎌倉彫について、鎌倉彫振興事業所の維持管理、伝統鎌倉彫事業協同組合が行う鎌倉彫創作展、小・中学生の体験教室等に要する経費の一部助成
- ・永福寺跡等指定史跡の公開・活用
- ・VR等先進技術を活用した構成文化財の見える化の推進（永福寺、法華堂）
- ・市内市外を問わず、小中学校授業へ日本遺産関連資材の提供を行い、鎌倉の歴史や文化への深い見識を身に着けることで、長期的な鎌倉愛の醸成を行うとともに、将来的な担い手の確保へとつなげていく。
- ・現在市が進めているエコミュージアムの構築と連動し、構成文化財を、地域住民等が主体的に保存と活用に関して、積極的に参加し持続する仕組みづくりを進める。

(7) 地域活性化のために行う事業			
(7) - 1 組織整備			
(事業番号 1 - A)			
事業名	日本遺産いざ鎌倉協議会の推進		
概要	取組の共有及び推進のための意見交換の場の設置		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産いざ鎌倉協議会の開催	年 2 回程度の協議会を開催し、事業計画の進捗についての協議や予算決算等の報告を行う。また、月 1 回程度の事務担当打ち合わせを開催し、協議会構成団体の取り組みについて情報共有等を行う。	協議会
②	日本遺産いざ鎌倉協議会の部会（下部組織）の立ち上げ	協議会のもとに、整備、広報、ツアー造成など、プロジェクトベースごとに部会を設置し、そこに関係する社寺、観光関連団体、企業等を巻き込み、日本遺産ストーリーや取組を理解、共有、参画した体制を構築する。	協議会
③	ふるさと寄付金による運営財源の確保	歴史・文化の活用・発信を目的としたふるさと寄付金の募集を行い、組織運営及び事業実施の原資とする。	鎌倉市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	協議会等の開催数		7
2020年			2
2021年			2
2022年	協議会等の開催数		6
2023年	協議会等の開催数		6
2024年	協議会等の開催数		6
事業費	2022年：200千円 2023年：22,000千円 2024年：22,000千円		
継続に向けた事業設計	協議会においては日本遺産事業の戦略立案や企画の検討、調整などを行い、事業は協議会を含めて各構成団体で実施する。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	次期観光基本計画への位置づけ及び観光客動向調査		
概要	観光施策における日本遺産の積極的な活用のための第4期観光基本計画への位置づけや観光客動向調査を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	入込観光客調査	年4回の無料観光施設の観光客カウント調査、社寺境内での対面アンケート及びオンラインアンケート、年間の有料観光施設及び宿泊施設の利用者数調査による入込観光客数及び観光消費額の推計	鎌倉市
②	鎌倉の観光事情の作成	入込観光客数調査集計データを基に、第3期鎌倉市観光基本計画に基づく取組内容の実績と評価をまとめた冊子を年1回発行	鎌倉市
③	観光基本計画の推進	年2～3回程度の鎌倉市観光基本計画推進委員会を開催し、計画の実績と評価に対する調査審議の実施	鎌倉市
④	鎌倉市観光基本計画推進委員会との連携	学識者などで構成する観光基本計画推進委員会（附属機関）と連携し、神社庁及び鎌倉市仏教会とも連携した取り組みについて意見交換を行う。	鎌倉市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	関係協議会等の開催回数		2
2020年			1
2021年			1
2022年	関係協議会等の開催回数		2
2023年	関係協議会等の開催回数		3
2024年	関係協議会等の開催回数		4
事業費	2022年：370千円 2023年：370千円 2024年：370千円		
継続に向けた事業設計			

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名		地域プレイヤー人材の確保・育成	
概要		日本遺産を含めた地域への愛着を造成するため、地域で活動するプレイヤーの活動支援及びプレイヤー間での連携を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	市民協働事業の実施	鎌倉市では市民活動団体が活発に活動しており、多様な活動を実施する団体と市の施策のマッチングを行い、観光地図の質的向上などの課題を解決する。 過去にはホームページの作成に長けた団体に本市のホームページのコンテンツの充実化を図る事業を実施。	鎌倉市
②	ガイド団体への講座支援	鎌倉市では主に3つのボランティアガイド実施団体が活動しており、各団体において日本遺産についての講座を毎年実施する。	鎌倉市
③	日本遺産事業推進担当者の配置	令和5年度に新たに、日本遺産事業推進担当者を配置し、観光事業者や市民への啓発活動、観光ツアー造成等及び日本遺産事業全般における企画実施、連絡調整を担い、ここでの蓄積を基に、地域プロデューサーを擁立する。	協議会
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	-		-
2020年			-
2021年			-
2022年	日本遺産の案内を行うガイド数		130
2023年	日本遺産の案内を行うガイド数		140
2024年	日本遺産の案内を行うガイド数		150
事業費		2022年：300千円 2023年：300千円 2024年：300千円	
継続に向けた事業設計		プレイヤーの活動支援であるため、既存の枠組みを活用して継続して実施する。	

(7) - 4 整備			
(事業番号4-A)			
事業名		受入環境の整備	
概要		来訪者が鎌倉のストーリーを体験し、満足できる環境を整備する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	多言語観光案内板の整備、改修及び修繕	一次、二次交通機関から主要構成文化財までの経路などに設置しているルート案内板等の維持を行う。また、既存の案内板等についても来訪者の変化に合わせ多言語による案内を行うよう改修する。平行して整備する日本遺産ホームページ(観光公式HP内)とのリンクなどICTも活用した整備について研究、検討し、令和5年度以降の予算化を目指す。	鎌倉市
②	混雑情報の発信やモデルルートの提案等による混雑対策の実施	鎌倉駅周辺等の混雑状況を発信することで混雑を避けた体験をできるようにし、満足度の向上につなげるため、令和4年度に混雑可視化マップシステムの整備、ICTを活用した渋滞情報の提供を実施	鎌倉市
③	日本遺産ガイド機能の付加	・観光案内所や文化施設での日本遺産案内の機能を付加する。QRコードを通じて、グーグルマップを活用した日本遺産構成文化財への地理的案内の実施。	協議会
④	観光案内板に日本遺産ストーリー説明機能を付加	多言語観光案内板に日本遺産ストーリー説明機能を付加し、多言語解説については、知見を持つネイティブの協力を求めるなど適切かつ効果的な案内表示に努める。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	観光客の満足度		87%
2020年			81%
2021年			82%
2022年	観光客の満足度		83%
2023年	観光客の満足度		84%
2024年	観光客の満足度		85%
事業費		2022年：17,900千円 2023年：5,400千円 2024年：5,400千円	
継続に向けた事業設計		市費での実施に加えて、国等の多言語解説整備支援制度や文化資源活用事業補助金などの活用も視野に入れての実施も検討。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号5-A)			
事業名	日本遺産を活用した観光ツアーの造成		
概要	国宝や重要文化財などを保存・修復するための活動自体を観光ツアーの体験として取り込んだ事業の実施を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ガイド団体への講座支援	鎌倉市では主に3つのボランティアガイド実施団体が活動しており、各団体において日本遺産についての講座を毎年実施する。 ガイド事業は主に毎月3回の全体ガイドツアーとホームページ等からの申し込みによる帯同ツアーにより実施する。	鎌倉市
②	旅行事業者等へのパッケージ提供	日本遺産構成文化財の修復など保存の取り組みを体験するツアーを構成し、旅行事業者等へ提供を行う。	市観光協会
③	日本遺産ツアーの造成	日本遺産をめぐるプレミアムツアーとして令和5年度に3つのツアーを商品化するほか、鎌倉彫体験、流鏑馬見学のツアー造成や、在京各国大使を対象としたエグゼクティブツアーを行う。	協議会 観光協会
④			
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	-		-
2020年			-
2021年			-
2022年	日本遺産関連ツアー催行回数		2
2023年	日本遺産関連ツアー催行回数		4
2024年	日本遺産関連ツアー催行回数		4
事業費	2022年：2,000千円 2023年：4,000千円 2024年：4,000千円		
継続に向けた事業設計	パッケージ利用に手数料を付加し事業収益とする。プレミアム付けのため、高単価低頻度による実施とする。		

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号6-A)			
事業名		日本遺産普及啓発事業	
概要		教育や生涯学習への働きかけ、イベント実施を通じて、鎌倉の歴史文化への理解や日本遺産の認知を促進する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	市内学校での講義や授業支援	これまでも、市内の小中学校においては、鎌倉の歴史、文化、自然についての学び、郷土学習が行われているが、出前事業、校外学習及び副教材の活用などによりこれらのさらなる充実を支援する。また、大学等の高等教育機関との交流も深める。	鎌倉市
②	包括連携大学との協定	各種分野において連携協定を締結している大学（鎌倉女子大学、関東学院大学、神奈川大学、東海大学、横浜市大、フェリス女子大学、湘南工科大学、二松学舎大学、慶応大学SFC研究所、多摩大学（予定））と連携し、地域で活動する学生を増やし、他団体との連携も含め交流を深め、学生目線での情報発信を通じて鎌倉の日本遺産ストーリーや構成文化財をアピールする。	鎌倉市・観光協会・大学
③	鎌倉観光文化検定	鎌倉の文化・歴史を学び、それを再認識する機会と環境を提供する手段として鎌倉に関する知識を問う検定試験を実施することを通じて、鎌倉の歴史文化に造詣の深い語り手を増やしていく。	鎌倉商工会議所
④	日本遺産サミット等各種イベントへの出展	毎年開催される日本遺産サミットに参加し、普及を図る。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	鎌倉観光文化検定受験者数		603人
2020年			-
2021年			-
2022年	鎌倉観光文化検定受験者数		700人
2023年	鎌倉観光文化検定受験者数		750人
2024年	鎌倉観光文化検定受験者数		800人
事業費		2022年：5,000千円 2023年：5,000千円 2024年：5,000千円	
継続に向けた事業設計			

(7) - 7 情報編集・発信				
(事業番号7-A)				
事業名		観光情報の発信		
概要		日本遺産ストーリーを実際に体感してもらうため、構成文化財に容易にアクセスできる環境を整える、観光資料等の配布を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体	
①	鎌倉日本遺産のしおりの作成	日本遺産を巡る周遊マップの機能を兼ね備えた鎌倉の日本遺産のストーリーをたどる手引書を作成し、配布する。	協議会 市観光協会	
②	鎌倉観光公式HPにおける日本遺産紹介ページの充実	鎌倉観光公式HPにおける日本遺産紹介ページの充実を行う。	協議会	
③	SNS発信	日本遺産にまつわる情報をTwitter・Facebookにより定期的に発信する。	観光協会・鎌倉市	
④	日本遺産ブックレット作成	鎌倉の日本遺産ストーリーを紹介するブックレットの作成・配布を行う。	鎌倉市	
年	事業評価指標		実績値・目標値	
2019年	観光マップ配布数		15万	
2020年			2万	
2021年			7万	
2022年	観光マップ等配布数		12万	
2023年	観光マップ等配布数		15万	
2024年	観光マップ等配布数		18万	
事業費		2022年：1,700千円	2023年：1,700千円	2024年：1,700千円
継続に向けた事業設計		広告収入による事業費の補填を行う。		